

Ⅲ 教育実習

本章では、実践的な指導力が身に付く効果的な教育実習を行うために、教育実習の指導を4領域と関連付け、指導内容を明記して学生が大学の学びを教育実習で生かせるようにした。併せて、実習評価票（学生用・大学用）を示すことで、大学が学校と一層連携して教育実習を行うことができるようにした。

1 教育実習事前指導の内容

領域1 教員の在り方に関する領域

(1) 教育に対する使命感と豊かな人間性

● 具体的な姿

- 教育者としての使命感と責任感をもち、児童・生徒や保護者、社会が寄せる信頼と期待を具体的に理解している。
- 児童・生徒一人一人の実態や状況を把握し、児童・生徒のよさや可能性を引き出し伸ばす能力の素地を身に付けている。

(2) 教員として必要な教養

● 具体的な姿

- 身だしなみや立ち居振る舞い、言動など、教員に求められる礼節を身に付けている。
- 学校教育の課題や動向等についての基本的な知識を身に付けている。
- 常に新しい情報に基づく国内外の政治や経済、社会の動向等を知るとともに、文化や芸術等に触れるなど、幅広い教養を身に付けようとしている。

(3) コミュニケーション能力と対人関係力

● 具体的な姿

- 他者とのコミュニケーションを上手に図るために必要な能力について理解し、適切にコミュニケーションを図るとともに、自らのメンタルヘルスについて留意している。
- 児童・生徒や保護者、地域住民に対する適切な言葉遣いや相手を思いやる姿勢など、互いの信頼関係を築くために必要なコミュニケーションスキルを身に付けている。

(4) 学校教育に関する法令等と学校教育の役割

● 具体的な姿

- 学校教育に関する法令等の基本的な内容を理解している。
- 学校教育に関する法令等を教育委員会の教育目標等と関連させ、学校や教育行政の役割を理解している。

(5) サービスの厳正

● 具体的な姿

- 全体の奉仕者としての自覚をもち、「不適切な行為、セクシュアル・ハラスメント等の禁止」、「私的なメールやSNS等の禁止」、「個人情報の適切な管理」、「体罰等の禁止」、「飲酒に関わる不適切な行為の防止」、「自家用車通勤等の禁止、交通事故の防止」、「パーソナルコンピュータの適正な利用」等のサービスの厳正及び「教職員の主な非行に対する標準的な処分量定」について理解している。
- 個人情報保護に関わる個人情報の収集・利用・管理について理解している。

(6) 体罰の根絶

● 具体的な姿

- 体罰が法令により禁止されている根拠と意義について理解している。
- 東京都の体罰の現状や課題、体罰が児童・生徒に及ぼす影響等について理解している。
- 体罰の定義や体罰関連行為及び体罰が服務事故となること、体罰の根絶が重要であることを理解している。

領域2 各教科等における実践的な指導力に関する領域**(1) 学習指導要領****● 具体的な姿**

- 学習指導要領の法令上の位置付けや教育課程を編成する際の基準性を理解している。
- 学習指導要領における目標と内容を、学年や各教科等の系統性や関連性を踏まえて理解している。

(2) 教材研究・教材解釈と授業づくり**● 具体的な姿**

- 小学校においては、各教科等の内容に関わる基礎的・基本的な知識を身に付けている。中学校及び高等学校においては、担当教科等の専門的な知識を身に付けている。
- 身近な素材を教材として活用するために必要な条件、要素及び手順並びに教材研究・教材解釈の意義や方法を理解している。

(3) 単元指導計画の作成及び改善**● 具体的な姿**

- 単元指導計画を作成するために必要な指導目標や指導内容、評価規準、指導観及びそれらの関連性について理解している。
- 指導目標に沿って単元指導計画を作成し、各時間の授業の指導目標と評価規準、指導観に基づいた授業構成（導入、展開、まとめ）を計画する方法を理解し、模擬授業や教育実習等で実践している。
- 作成した単元指導計画を基に模擬授業等を行うとともに、実践を踏まえ、授業改善を行っている。

(4) 指導方法・指導技術**● 具体的な姿**

- 各教科等の特性に応じた基本的な指導方法や指導技術等（発問の仕方、効果的な板書、分かりやすい説明等を含む。）を理解している。
- 教材（題材）・教具等を活用した基本的な指導技術を身に付け、模擬授業や教育実習等で実践している。
- ICT機器を活用した資料提示や資料作成の方法を身に付け、模擬授業や教育実習等で実践している。

(5) 児童・生徒の学習状況の把握と評価**● 具体的な姿**

- 学習指導における評価（診断的評価・形成的評価・総括的評価、観点別学習状況評価等）の意義を理解している。

(6) 授業力向上と授業改善**● 具体的な姿**

- 授業力を構成する6要素「使命感、熱意、感性」、「児童・生徒理解」、「統率力」、「指導技術（授業展開）」、「教材解釈・教材開発」、「『指導と評価の計画』の作成・改善」について、授業観察や授業分析等を通して理解している。
- 授業力向上のためのPDCAサイクルについて理解し、模擬授業や教育実習等の授業研究でその方法を実践している。
- 模擬授業や教育実習等において、授業のねらいの達成度、教材・教具の活用、効果的な指導方法等について適切に評価し、授業改善に生かそうとしている。

(7) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

● 具体的な姿

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）の取組について、その必要性を理解している。
- 学んだことを人生や社会の在り方と結び付けて考え、必要な資質・能力を身に付けていくためには、知識の量や質と思考力等の両方が重要であることを理解している。

(8) 情報教育の推進

● 具体的な姿

- 情報教育の目標の3観点（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）をバランス良く育成することの必要性について理解している。
- プログラミング教育の重要性を理解するとともに、タブレット端末等を効果的に活用した授業づくりの方法を身に付けようとしている。

(9) 英語教育の充実

● 具体的な姿

- グローバル化が急速に進展する現状や学習意欲、学校種間の接続などの課題を踏まえ、「使える英語」を習得させる実践的教育の推進の必要性を理解している。

(1) 全ての児童・生徒が学び成長し続けられる教育の実現

● 具体的な姿

- 児童・生徒が家庭の状況に左右されることなく学び続け、希望の進路を目指す学力を身に付けることができる環境づくり等のための、国や東京都の貧困対策等に関する基本的な施策について理解している。
- 日頃の授業を振り返るとともに国や東京都の学力調査や東京都立高等学校入学者選抜における学力検査の結果等を活用し、児童・生徒一人一人の学習の状況を把握・分析し、教材づくりを行うことの大切さを理解している。
- 児童・生徒の家庭における成育環境が大きく変化している現状を把握するとともに、教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカー等が、保護者への支援など児童・生徒が置かれた環境へ働き掛ける基本的な仕組みについて理解している。
- グローバル化の進展に伴い日本語指導が必要な児童・生徒が増加していることや、学校の環境に適応するための支援など、日本語指導が必要な児童・生徒に関する現状や課題等、基本的な事項について理解している。

(2) 新しい価値を創造する力を育む教育の推進

● 具体的な姿

- 持続可能な社会づくりを目指す態度の育成や、科学技術立国日本を支える科学的探究力、情報活用能力の育成の基本を理解している。
- 持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を育成する方法を身に付けようとしている。

(3) 世界で活躍できる人材の育成

● 具体的な姿

- 経済・産業・文化などあらゆる分野で国際化が進展している現状や、多様な人々との共存や国際協力等の重要性を踏まえて、世界で活躍できる人材を育成する必要性を理解している。

(4) 社会的自立に必要な力を育む教育の推進

● 具体的な姿

- 「人権教育・啓発に関する基本計画」、「東京都人権施策推進指針」等から、人権課題や人権教育の目標について理解している。
- 教育者として、児童・生徒一人一人を大切にされた指導を実践するために、児童・生徒との日頃の関わり方や言葉遣い、教室環境等あらゆる観点から常に人権感覚を見直すことができる。
- 学習指導要領や国・東京都の関係文書等を基に、「特別の教科 道徳」が創設された背景に関わる基本的な事項について理解している。
- 児童・生徒一人一人が将来の夢や希望を大切にできるよう、教員として児童・生徒と共に将来を語り合い、前向きに生きることの大切さを伝え、児童・生徒が自らの意志と責任でよりよい進路選択ができる力を育むことの重要性を理解している。
- 各教科等相互の関連性や系統性に留意し、望ましい勤労観・職業観を育成するために、全教育活動において、計画的な指導を行っていくことの重要性を理解している。
- 学校、家庭、地域が一体となった防災教育を通して、防災に関する思考力、判断力や行動力を高め、どのような状況にあっても、災害等の発生時に自らの身を守り他者の安全に貢献できる力を育むことを理解している。
- 教員自らが、基本的な生活習慣や健康及び体力を保持していくための能力や態度を身に付けている。
- 「アクティブプラン to 2020」ー総合的な子供の基礎体力向上方策（第3次推進計画）ーに基づき、学校体育の充実、生活習慣・運動習慣の改善、競技力の向上、体力向上のための体制づくりを保護者や地域社会と連携して行うことの重要性を理解している。

(5) 悩みや課題を抱える児童・生徒に対するサポートの充実

● 具体的な姿

- いじめに関する法令や基本方針、いじめの動向について理解している。
- いじめの未然防止、早期発見、早期対応、重大事態への対処に関する校内体制の構築や組織的対応、地域・関係機関との連携等、基本的な事項について理解している。
- 児童・生徒の自殺の現状や背景について理解している。
- 現在の不登校の状況、背景や要因、不登校児童・生徒に対するアセスメントについて理解している。
- 不登校の未然防止や早期対応のための、校内での組織的対応や関係機関との連携の意義や基本的な方法を理解している。

(6) 障害のある児童・生徒の多様なニーズに応える教育の実現

● 具体的な姿

- 情緒障害、自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害に関する基礎的な知識を身に付け、国や東京都の特別支援教育に関する施策等について理解している。
- 特別支援教育を推進するための学校の組織体制や、関係機関との連携の在り方について理解している。

(7) オリンピック・パラリンピック教育の推進

● 具体的な姿

- オリンピック・パラリンピック教育の目的、基本的な枠組み、進め方、レガシー（大会後も継続していく教育活動）について理解している。

(8) 児童・生徒の学びを支える教員力・学校力の強化

● 具体的な姿

- 学校における教職員の職層と職責・職務内容や、学校と教育委員会との関係等を関係法令等に基づいて理解している。

領域4 学級経営に関する領域

(1) 学級経営の意義と学級づくり

● 具体的な姿

- 学校生活の場である学級を、教育的効果が上がる集団として組織し、児童・生徒の人間の成長を目的として運営していく学級経営の意義を理解している。
- 学級経営案の意義及び学年・学校経営との関連性や、学級経営案の作成に関する基本的な事項を理解している。

(2) 集団及び個に応じた生活指導

● 具体的な姿

- 生活指導の意義を理解し、指導の前提となる児童・生徒一人一人の発達の段階に応じた、集団指導及び個別指導の在り方を理解している。
- 校則、懲戒及び体罰等生活指導に関する主な法令や民法、刑法、未成年者の喫煙防止法、未成年者飲酒禁止法など生活指導上必要となる主な法令の一部について内容を理解している。
- 食物アレルギーが発生する仕組みや原因について理解し、アレルギー疾患に適切に対応することが重要であることを理解している。
- アレルギー疾患の予防に必要なことを理解するとともに、アレルギー症状発生時に必要な緊急対応の方法について理解している。

(3) 児童・生徒理解と教育相談

● 具体的な姿

- 学校における教育相談の進め方や、教育相談機能を活用した指導の在り方、関係機関との連携の在り方の基本的な事項を理解している。

(4) 保護者・地域との連携

● 具体的な姿

- 保護者や地域住民等との連携・協力に向けた、学校の組織的な対応の重要性を理解している。
- 保護者や地域住民等と対面する様々な場面（学校行事、保護者会、家庭訪問、個人面談、問題発生時等）を想定し、ロールプレイなどの演習を通じて、学級担任等として適切に対応する方法を理解している。

2 教育実習中の指導の内容

領域1 教員の在り方に関する領域

(1) 教育に対する使命感と豊かな人間性

● 具体的な姿

- 教育者としての使命感と責任感をもち、児童・生徒や保護者、地域社会が寄せる信頼と期待を具体的に理解し、熱意をもって教育実習に取り組んでいる。
- 児童・生徒一人一人の実態や状況を把握し、児童・生徒のよさや可能性を引き出し伸ばすために、休み時間に一緒に活動したり、当番活動等に積極的に関わったりしている。

(2) 教員として必要な教養

● 具体的な姿

- 身だしなみや立ち居振る舞い、言動など、教員に求められる礼節を身に付けている。
- 学校教育の課題や動向等についての基本的な知識を身に付けようとしている。

(3) コミュニケーション能力と対人関係力

● 具体的な姿

- 上司や同僚に、適切に報告・連絡・相談をしたり、保護者や地域住民からの相談にのったりするために必要なコミュニケーションスキルを身に付けている。

(4) 学校教育に関する法令等と学校教育の役割

● 具体的な姿

- 学校における教育活動の様々な場面において、法的根拠を踏まえて判断し、行動することの重要性を理解している。

(5) サービスの厳正

● 具体的な姿

- 児童・生徒、保護者、地域の信頼に応えるため、教育公務員のサービスの厳正、サービス事故防止の重要性等について事例等から理解し、法令を遵守する態度を身に付けている。

(6) 体罰の根絶

● 具体的な姿

- 体罰発現のメカニズムについて理解し、体罰によらない指導及び根絶に必要な対策を理解している。

領域2 各教科等における実践的な指導力に関する領域

(1) 学習指導要領

● 具体的な姿

- 教育課程の編成や指導計画の作成、学習指導案の作成等と関連させて、学習指導要領の各教科等の目標・内容等を理解している。

(2) 教材研究・教材解釈と授業づくり

● 具体的な姿

- 各教科等の特性を踏まえ、育成を目指す資質・能力を明らかにして、児童・生徒の実態に即した授業づくりの基本的な方法を身に付けている。

(3) 単元指導計画の作成及び改善

● 具体的な姿

- 指導目標に沿って単元指導計画を作成し、各時間の授業の指導目標と評価規準、指導観に基づいた授業構成（導入、展開、まとめ）を計画する方法を理解し、模擬授業や教育実習等で実践している。
- 作成した単元指導計画を基に模擬授業等を行うとともに、実践を踏まえ、授業改善を行っている。

(4) 指導方法・指導技術

● 具体的な姿

- 各教科等の特性に応じた基本的な指導方法や指導技術等（発問の仕方、効果的な板書、分かりやすい説明等を含む。）を理解している。
- 教材（題材）・教具等を活用した基本的な指導技術を模擬授業や教育実習等で実践している。
- ICT機器を活用した資料提示や資料作成の方法を身に付け、模擬授業や教育実習等で実践している。

(5) 児童・生徒の学習状況の把握と評価

● 具体的な姿

- 学習指導における評価の意義を理解している。
- 模擬授業や教育実習等において、児童・生徒の発言や記述を基に適切な評価を行い、指導に生かそうとしている。

(6) 授業力向上と授業改善

● 具体的な姿

- 授業力向上のためのPDCAサイクルについて理解し、模擬授業や教育実習等の授業研究でその方法を実践している。
- 模擬授業や教育実習等において、授業のねらいの達成度、教材・教具の活用、効果的な指導方法等について適切に評価し、授業改善に生かそうとしている。

(7) 「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善

● 具体的な姿

- 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」の実現が重要であることを理解している。

(8) 情報教育の推進

● 具体的な姿

- 教育の質を高めるため、ICT機器を活用した効果的な指導方法・学習方法等や確かな学力を着実に育成するために有効なデジタル化された教材を活用することの必要性を理解し、実践しようとしている。

(9) 英語教育の充実

● 具体的な姿

- 小学校・中学校・高等学校を通じて一貫して育む領域別の目標を踏まえ、基本的な指導計画を立案し、実践しようとしている。

(1) 全ての児童・生徒が学び成長し続けられる教育の実現

● 具体的な姿

- 小学校及び中学校においては、「習熟度別指導ガイドライン」等を活用した効果的な指導方法を身に付けるとともに、「東京ベーシック・ドリル」等の教材を積極的に活用し、各教科の基礎的・基本的な学力を定着させることの大切さを理解している。
- 学校だけでなく家庭・地域と相互に連携し、社会全体で児童・生徒の教育を推進することが重要であることについて理解している。
- 学校における日本語指導の必要な児童・生徒に対する日本語指導の進め方について、関係機関との連携の仕方や日常の指導において配慮すべき留意点等、基本的な事項について理解している。

(2) 新しい価値を創造する力を育む教育の推進

● 具体的な姿

- 各教科等の指導について、E S Dの視点を意識した指導計画を考えることができる。

(3) 世界で活躍できる人材の育成

● 具体的な姿

- 豊かな国際感覚の醸成や日本人としての自覚と誇りを^{かんよう}涵養するための基本的な事項を踏まえた指導計画を立案し、実践しようとしている。

(4) 社会的自立に必要な力を育む教育の推進

● 具体的な姿

- 日々の授業や学級経営において、児童・生徒一人一人の個性や長所を生かし、学級の一人としての存在感を味わわせることができる指導力の素地を身に付けている。
- 発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童・生徒が自分自身の問題と捉え向き合う「考え、議論する」道徳の基本的知識を身に付け、指導方法を実践しようとしている。
- 小学校及び中学校においては、「特別の教科 道徳」や総合的な学習の時間、特別活動等で、高等学校においては、学校設定教科「人間と社会」や総合的な学習の時間、特別活動等で児童・生徒に将来を考えさせたり、自己の可能性を見いださせたりするための基本的な指導方法を身に付けている。
- 「安全教育プログラム」の内容を理解し、防災教育で身に付ける力、必ず指導する基本的事項を踏まえた指導計画を立案し、実践しようとしている。
- 体育や保健体育の授業だけでなく、学校生活全体を通して身体的活動量を増加させて、児童・生徒の基礎体力を十分に高めるための基本的な方法を理解している。

(5) 悩みや課題を抱える児童・生徒に対するサポートの充実

● 具体的な姿

- いじめの定義やいじめの態様について理解し、基本的な指導方法を理解している。
- 児童・生徒の自殺を防止するための、児童・生徒の実態把握の方法や校内体制の構築、組織対応、地域・関係機関との連携等、基本的な事項について理解している。
- 不登校児童・生徒及び保護者等への支援や基本的な対応方法について理解している。

(6) 障害のある児童・生徒たちの多様なニーズに応える教育の実現

● 具体的な姿

- 通常の学級に在籍する、特別な支援を必要とする児童・生徒への適切な支援を行うために、具体的な場面を想定した基本的な指導方法を身に付けている。

(7) オリンピック・パラリンピック教育の推進

● 具体的な姿

- オリンピック・パラリンピック教育の進め方、基本的な枠組み、重点的に育成すべき5つの資質等を踏まえた指導計画を立案し、実践しようとしている。

(8) 児童・生徒の学びを支える教員力・学校力の強化

● 具体的な姿

- 学校組織の一員として必要な報告・連絡・相談を行うことや、校務の内容を校務分掌組織等と関連させることの重要性を理解している。
- 多様な専門性をもつ人材等と連携・分担してチームとして職務を担えるように、役割に応じて活躍しようとしている。

領域4 学級経営に関する領域

(1) 学級経営の意義と学級づくり

● 具体的な姿

- 学級の規範づくりや教室の環境構成、清掃指導、給食指導等、学級集団づくりのための基本的な方法を理解している。

(2) 集団及び個に応じた生活指導

● 具体的な姿

- 学級集団を把握し、一人一人の児童・生徒と適切に対応するための基本的なコミュニケーションスキルを身に付けている。
- 状況に応じて判断し、教員として毅然とした態度をとることが必要な場面における適切な褒め方や叱り方等を教育実習等で理解し、実践している。
- アレルギー疾患への対応として日常の校内及び保護者との基本的な連携の方法を理解している。

(3) 児童・生徒理解と教育相談

● 具体的な姿

- 教育相談の基本的な技法を理解している。
- 構成的グループエンカウンター等の手法や、児童・生徒理解及び学級の課題解決の具体的な場面において活用する基本的な方法を理解している。

(4) 保護者・地域との連携

● 具体的な姿

- 学習指導や学級経営、教育相談等に関わる保護者との連携の在り方の重要性について、具体的な事例を通して理解している。

3 教育実習成績評価票（例）

平成 年 月 日

フリガナ 実習生名			学部		学科	
					専攻	
				学籍番号 ()		
実習期間		出席すべき日数	出勤日数	欠席日数（理由）		遅刻・早退
平成 年 月 日 から 平成 年 月 日 まで	日	日	病欠	日 ()	遅刻 早退	回 回
			事故欠	日 ()		
			その他	日 ()		

1 評 定

各評価項目及び総合評定について、いずれかの評語を記入してください。

(評語) 5 (非常に優れた資質・能力を有している) 4 (優れた資質・能力を有している) 3 (資質・能力を有している)
2 (資質・能力が不足している) 1 (教員としての資質・能力がない)

評価項目		具体的な姿	評 定
【領域1】 教員の 在り方	(1) 使命感と豊かな人間性と 教員として必要な教養	①児童・生徒一人一人の実態や状況を把握し、児童・生徒のよさや可能性を引き出し 伸ばすために、児童・生徒と積極的に関わっている。 ②教師に求められる常識を身に付けている。	
	(2) コミュニケーション 能力と対人関係力	①管理職をはじめとする、教職員とコミュニケーションを積極的に図ることができる 能力を身に付けている。 ②児童・生徒と適切な言葉遣いや話しやすい態度で接することができる。	
	(3) 学校組織の一員としての 役割とサービスの厳正	①学級担任の職務内容や校務分掌について理解し、管理職等に必要な報告、連絡等を 適切に行うことができる。 ②法令を遵守する態度を身に付けている。	
【領域2】 実践的 な指導力	(4) 学習指導要領の理解と 授業づくり	①学習指導要領の各教科等の目標や内容を踏まえて学習指導案を工夫している。 ②授業準備のための教材研究・教材解釈ができ、児童・生徒の実態に即した授業づく りを実践している。	
	(5) 単元指導計画の作成と 指導方法・指導技術	①単元指導計画に基づき、実践する授業の指導目標とや指導内容、評価規準、指導観 等を踏まえた学習指導案を作成することができる。 ②授業の場面において児童・生徒の実態と教科の特性に応じた指導方法や指導技術 (発問、板書、説明等)を身に付けている。	
	(6) 児童・生徒の学習状況 の把握と授業改善	①学習指導における評価の意義について理解し、授業中の児童・生徒の学習状況の把 握や個別指導等を工夫することができる。 ②授業研究後に授業を振り返り、課題を整理し授業改善を進んで実践している。	
【領域3】 教育課題	(7) 多様な教育課題の理解 及び対応力	①多様な教育課題の現状を理解するとともに、児童・生徒 や学校、社会が直面する 課題への対応力を身に付けている。 ②通常の学級に在籍する、支援を要する児童・生徒へ積極的に関わり、指導してい る。	
【領域4】 学級経 営	(8) 学級経営と集団の 把握・生活指導	①学級の規範づくりや教室の環境構成、清掃指導、給食指導等を積極的に行ってい る。 ②状況に応じて適時に的確な判断を行い、教師として毅然とした態度をとり、適切に ほめたり、叱ったりすることができる。	
	(9) 児童・生徒理解と教育 相談・保護者との連携	①カウンセリングマインドや教育相談の基本的な技法を踏まえて児童・生徒に接して いる。 ②保護者や地域住民等と連携して、学校の教育力を高めていることを理解している。	
総 合 評 定			

2 校長所見

教育実習全体を通しての所見を具体的に記入してください。

(観点別又は総合で「2」以下の評定を行った場合には、必ずその理由を記入してください。)

--	--

学 校 名 校 長 名	指導教員名 印
----------------	------------

4 教育実習評価票（例）

平成 年 月 日

フリガナ 実習生名		学部	学科	コース・専攻

※実習生1人につき、1枚作成してください。

1 連絡事項

各項目について、それぞれの観点に基づき、いずれかの評語を記入してください。

5（極めて適切である） 4（適切である） 3（特段の課題はない） 2（あまり適切ではない） 1（適切でない）

項 目		観 点	評 語
教育実習事前打合せ	(1) 大学との事前打合せ	①教育実習前までに大学で指導してきた内容が教育実習校に適切に伝えられている。 ②大学としての指導方針が実習校に適切に伝えられている。 （実習前の打合せや実習中の大学教員の訪問等）	
	大学との事前打合せ実施日 年 月 日		
教育実習事前打合せ	(2) 実習生との事前打合せ	①実習生が教育実習の目的や計画等を十分に理解している。 ②実習校までの交通手段や勤務時間、実習に必要な諸費用（給食費や教材費）等の手続きについて、実習生が理解している。	
	実習生との事前打合せ実施日 年 月 日		
教育実習中の指導	(3) 教育実習中の指導	①教育実習中の実習生（サービスや学習指導、児童・生徒との関わり等）の状況を十分に把握している。 ②大学として、課題のある実習生への指導を適切に行っている。	
	大学の教育実習中の訪問指導実施日 年 月 日		
教育実習中の指導	(4) 研究授業等への指導	①学生が行う研究授業を参観している。 ②授業後、研究協議会に参加し、実習生の授業について指導・助言をしている。 ③実習生の授業について、校長や指導教員と情報交換を行い、成果と課題を把握している。	
	大学の教育実習中の研究授業参観日 年 月 日		

2 校長所見

教育実習全体を通しての大学の関わり方についての所見を具体的に記入してください。

（「2」以下の評語を記入した場合には、必ずその理由を記入してください。）

教育実習校	立	学校	校 長 名	印
-------	---	----	-------	---

